

## 1 本校の概要

本校は、甲賀市の西南部にある信楽町の北部に位置し、学区の中央を流れる大戸川が田畑を潤し自然環境に恵まれた地域である。学校の南に信楽高原鉄道雲井駅があり、勅旨と丸岡地区の児童が通学に利用している。

また、北東には、紫香楽宮跡や宮町遺跡があり、南西には県立陶芸の森や古墳があり、学習に利用している。

## 2 取り組んだ内容

地域学を大切にした総合的な学習の時間の一つに5年生の三雲養護学校紫香楽校舎との交流がある。ベッドサイドでリモートによる交流がメインになる児童もいて、本校5年生は、年間2回の交流を通して、共生について課題解決学習に励んでいる。

### (1) 6月 1回目の交流

子どもたちは、初めての交流で自分たちが考えた交流がうまくいくのか不安に思いながらも、ペットボトル倒しや糸電話、リコーダー演奏など体全体を使って心温まる交流に励む姿があった。

### (2) 11月 2回目の交流

絵本の読み聞かせやダンスの披露等をした。運動会での演技であるよさこいソーラン節を汗だくになりながら披露し、自分たちの思いを伝えたいという姿勢があった。互いに心の交流を図るために、相手の表情を見ながら丁寧にやり取りをすることができた。約35年間続けられてきたこの交流を、これからも大切にしていきたい。

## 3 活動の成果

今回の交流では、本事業で助成いただいた機材を使用できなかったが、次年度以降は、雲井保育園年長児との交流も含めて、音楽の伴奏を伴う出し物や交流では、有効活用できると確信している。

子どもたちは、4年生でも老人ホームの方々と交流し福祉の大切さについて学んできた。今回は、言葉が通じなかったり、体が自由に動かせなかったりして、どうしたら温かく意思疎通が図れるかを考え続けてきた。やはり、BGMを流したダンス等の出し物には、三雲養護学校のみならず、一緒に体を動かしながらリズム

を楽しく感じ取ろうとする姿があり、音楽が持つ魅力を5年生の子どもたちも感じている。

以下、児童の振り返りの抜粋である。

- ・手を動かして反応してくれたり、ニコッと笑って声をだしてくれたりしてくれてうれしかった。
- ・目や耳を動かしてくれたから、ちゃんときいてくれたとわかってうれしかった。
- ・三雲養護学校のみならずたくさん話せた。緊張したけど、いっぱい笑ってくれた。
- ・工作がうまくできた。楽しそうにしてくれてうれしかった。
- ・読み聞かせは、ゆっくりと読む工夫をした。糸電話もゆっくりと話すとなんかやさしい。目をパチパチしたり笑ったりしてくれてうれしかった。
- ・合奏は間違えないように心がけた。笑顔でうれしそうにきいてくれてうれしかった。
- ・少し緊張したけど、ベッドの人たちが喜んでくれてうれしかった。
- ・表情が豊かだと思った。ぼくたちが簡単にできることも、できないこともある。そういう時にも支え合っていけたらと思う。
- ・交流では、三雲のお友だちが、目をパチパチさせて喜んでくれてうれしかった。
- ・みんなが喜んでくれた。ぼくは初めの言葉を言うとき緊張したけど、うまく言えてよかった。

